列國怪談聞書帖　三

秋元文庫
種類 15
部 2
冊

鬼
ぼうず

○鬼坊主

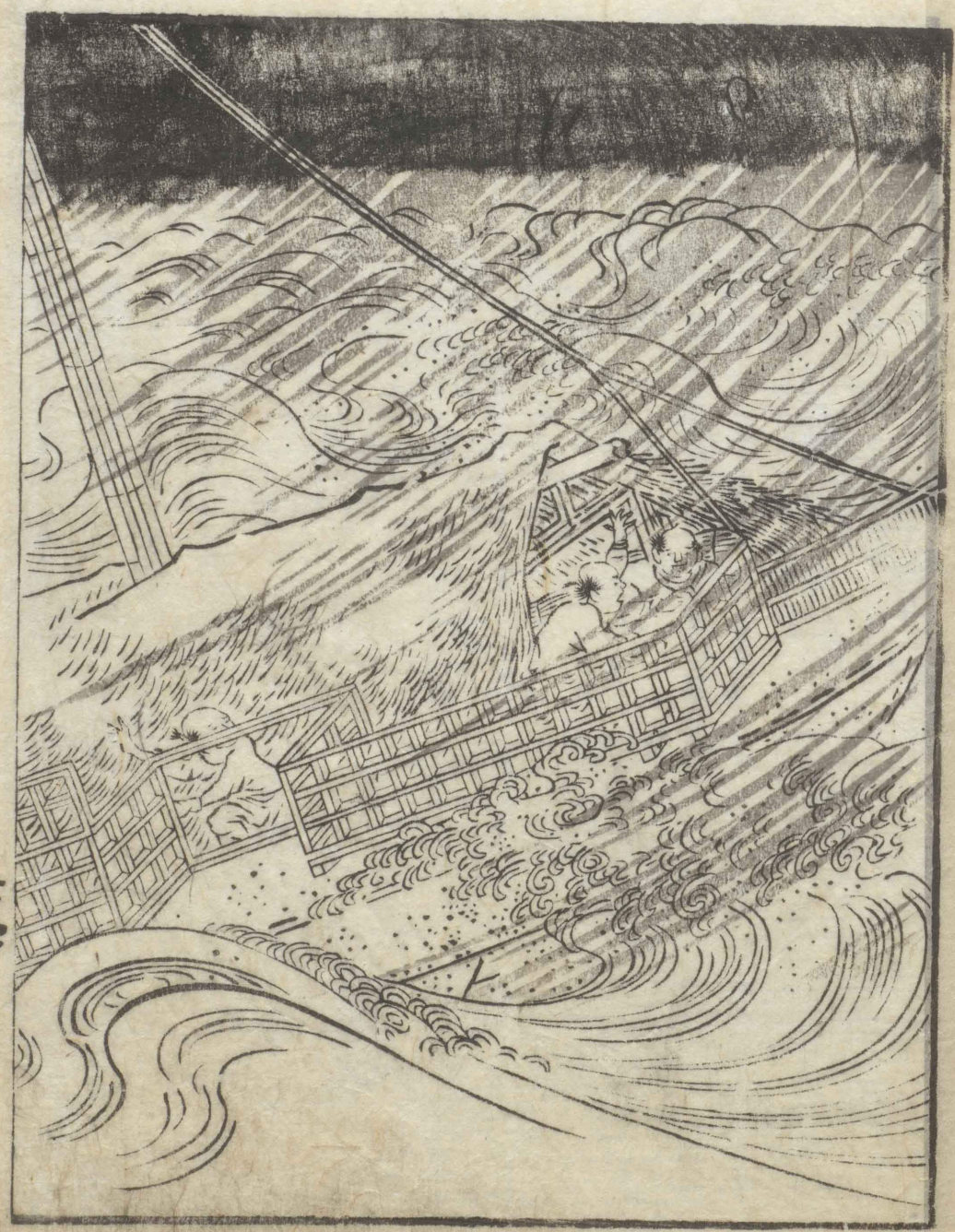
丹波の国酒役といふ所に寺座の者あり。あくまで強欲無道にて。世の人鬼夫婦と異名せり。此者或人の子に不空の料をうけ入て。其請て金銭を奪ひて子を殺害せる者又三尺人を又或時但馬の国へ男子を奪ひての料の金銭へ[illegible]又此男子を殺さんとの母居不何思ひけん此二子へあすまで[illegible]よくおもほえありて[illegible]墓所へ不便さに其身の助命[illegible]よしりて殺されの子に[illegible]。丈夫妻の留主を伺ひて[illegible]田刀にて[illegible]情なく殺して。産の子を埋みね。其後今男が地獄れしか。大に悩て腹中膨脹と患ひ[illegible]して此婦人の子が[illegible]医士[illegible]と診見て鬼胎と是り姙娠なり。西樵野記曰。明の撫涇に一丈夫兒と

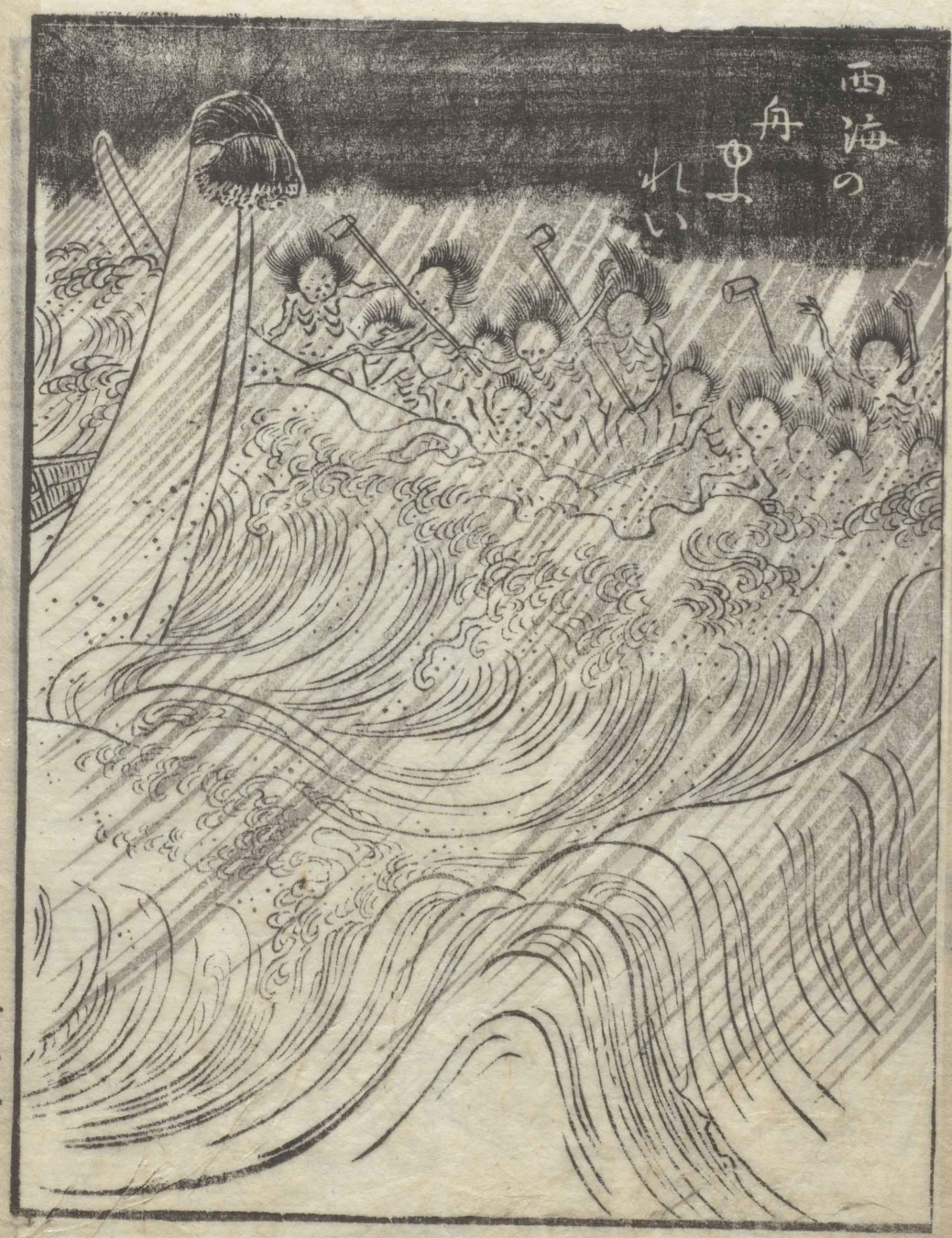
生む。又宋史に都城の男子一子を生むと記せり。かゝる例しあれば[illegible]にもありける[illegible]腹満腹痛[illegible]終ること呻吟叫て[illegible]破れて一子あり。頭に両の肉起て角の如く眼尖く口大きくして[illegible]夜叉の形に似たり。生ながら手足健かにて産所を飛出[illegible]畜獣の如く人々恐怖に[illegible]逃す母[illegible]のおもりに[illegible]又て盗賊を[illegible]近隣の[illegible]鬼子を捕へて[illegible]。[illegible]此畔面色は異体なれば人間[illegible]殺てかくの如く[illegible]道して[illegible]生長の後[illegible]近[illegible]の人鬼坊主となつて怖てへ[illegible]し。

ぶんごう

えもゝへ戸をとざしむ。奇疾使覽者姙婦の胎を殺さ繪不能感ずる時ハ種々の怪物と姙をる者。其例少からぬ。或一農婦あり。腹子滿月ゆゑ異物を生む。其形獺の如し。その後ゆゑ能て母姙四ケ月を及ぶ。吾野に出て耕す時。溝渠の傍ふ獺眠臥ゆる。我ゆ獺を汲て是を打殺す。是その物ゆ感て積惡の致す所なり。又名醫類聚ふいはく。至正の末越ふ支婦あり。大善寺の金剛神の側に縛葉して子婦と居く一子を産あり。その形異なり。角あつて夜又金剛の如し。是を産婦として四年養ひしかゝ故ゆ清津の地を探る冥罰ふてかゝる異物とせしゆゑ貞然の依報ゆて。

ゆゑんべし。誠ぞんバあるべし。




西海の
舟
ゆ
れい

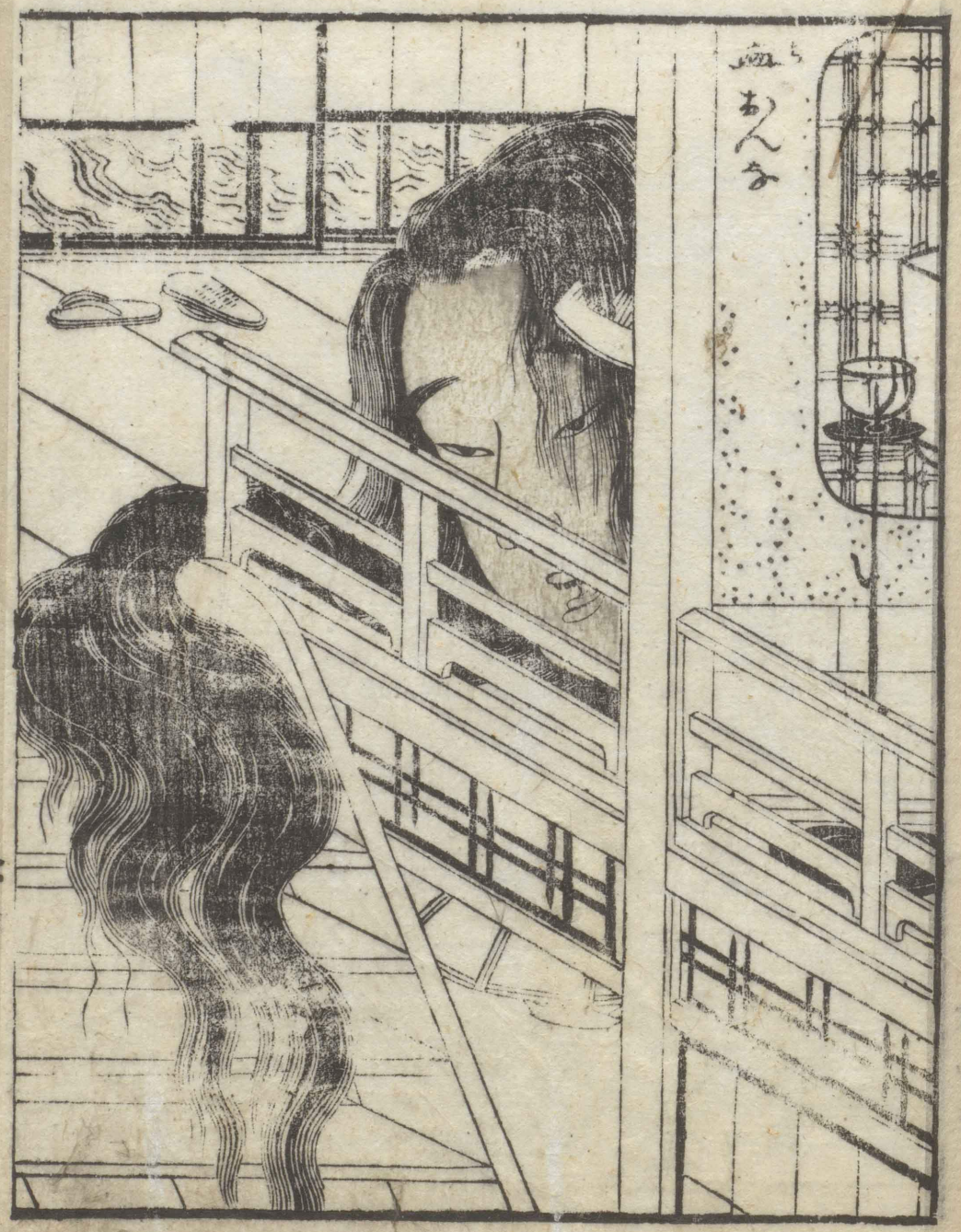
○沸くろ者

去る列千葉山の僧。回信といふ者。富欲の心深く。人を何某の處女
おとろくいふを。潜さを通じて。近ふ寄らる及ん。ある時。回信娘と
淫ひ出て。来の方へ志ひやぐふ。姫ハ驚ひ逃れバ。
ろの狂ひもさることなり。回信情ひ男惟ることを
迎ひ出て。ハ回乃ちぐに。されバ。ていろ。産ハ死病も思ひ
附ひ。俱ふ道路ふ寿と愛んとうハ仮ながら。
思ひ。強甲の境ひする山中ひて。回信常と何ひの時と潤ひ
落ひ人目ふ。ひ女ひ。そ西と。江戸へ文紙送信ひて。
右猪ひ改ひ表の被髪ひ。ひて。一ひ王用ふ仕也。ひ坂の折ひ
東海道富士川洪水ひれバ。甲州の山路とまひる。ひ并狼の防

有為の洞上を通りして。越方を思ひ回せバ光陰流るゝ年。十七回忌に当れども。思ひつゞけて何とやらん心細く。仏神に祈付として。猶も瘡痕しられバ頓て手拭ひにて此宿しけるに。此に又此宿の娘。歳二八斗なるが。自然の風色にして媚ありて。かの隙に恋ひて病しく。右衛門ようりおもふに心動きて。哀れ憐の情を起し。おそれ高下よすが何心ぞやと。案つゞけて臥居るに。其夜窓の妻戸を開て。右衛門が枕に音信ものあり。驚きて起て見れバ。此宿の娘也。膝まで寄り。夢の心地して。互に思ひ初し心の丈を語り合。かの枕に百とせの契とこめ添臥しける娘の[illegible]ことさら[illegible]なるに。右衛門が臥とあげて是とされバ此宿の娘なも[illegible]ちよつが面をしく変り。[illegible]右衛門に添て臥ながら。[illegible]

立伸て。菊五が臥上るに。忽ち其の顔を顕し。恨めしや。君に[illegible]て洞下に[illegible]泉下に迷ひの[illegible]君盟約の[illegible]を[illegible]も倶に同じ責を受なんと。髪を振乱て取つき[illegible]右衛門[illegible]上の一刀を抜て切払ふ時。[illegible]姿は消失ぬ。右衛門旧悪を恥じて。おのれが身の上を懺悔なれバ主なくて世に[illegible]の執着なり。[illegible]我末の子は[illegible]なり。十六年[illegible]の洞合にて旅の女の[illegible]押詰しければ。[illegible]彼が[illegible]衣類の[illegible]より。金子一歩[illegible]不残く[illegible]此時[illegible]悪念[illegible]女とも殺して[illegible]の金子を[illegible]基[illegible]。

と和葉まくそ。そ年子妾けるの妊娠みて。女子と生む。刈今日吳下の鬼
姫なり。彼生ずるゝ世ふ。婦婦首ふて。全く是我ず積悪の報
なるんと。欲念して。人ものを出さの沈ふる。刈今日十七回忌祥月命
日なり。付ても亦の四ふ投宿ありて。此因縁因果の一ふ疑ふる。女
が私怨の而為るゝ。年も始末と懺悔されば。若猫敷自忘て。
女が金子と祈ーーと初ーーとして。宮ふも宿世の業因恐べし。後ふ変
あて。蛭ふ拂ひ。再び宮つを入て。彼が前ふ拝と帛んーーと右猫巡国の後ず
墨と黄今ふろくろ首の怪とて。殺甲の怪なる。心中ふ有。此虫ふ頭尾ふ云
古文和漢五例あり。博物志ふ呉の朱植が一婢。搜神記ふ古越国の
婦人又鄉瑯代醉編三十二ふ元の詩人陳孚。安南ふ使ふ時
尸蛇蛮の詩あり。平仲ふ此ふ見ふ。あーーぞ



○すーどーかぶろ

むかし奈良の木はぢわて廊の地と擇へ比浦嶋の事ハ
ふ連夫伝ハ[illegible]赤子の泣声まるぶ清人怪こ四[illegible]して。
遊[illegible]く十ち[illegible]自然。[illegible]女廊下[illegible]の子の
声[illegible]と何ひ[illegible]ばくも黒形の妖怪先
行れて。[illegible]何ひ出り汚者のあ所[illegible]ぐ。
[illegible]ハ廊下[illegible]彼ハ[illegible]
の[illegible]て[illegible]
恐怖し[illegible]
[illegible]

四方へ身を散じ、大と生じて、見るに渾身に鱗を生じ、眼は
大なる光を出すと雖へ手足爪長く、ふる死あり。面は鼻て人の如く
全身八寸ばかりの小猫の如くにして、いさゝか毛ふる居の陰なるべし。地中窟
りの中に見えて、身は淫毒にして、異物志に曰、老檜園
の赤子の如く、鳴聲甚しく、又近くハ江戸の子に似たり。
岳陽川石橋の上にて、歩行の毎に小児の泣声あり、ハ
土地の人ほとんど、破と振て、花と咲て、あゝ き魚と
て、長サ弐尺五寸斗、面猫の如くにして四足あり。振ハ尾先
と歩中切るゝ故、早速死ぬ。御奉行所へ差上ケ、ふしぎん
せうこんなるものなり。御公儀由を聞ろ、さてゞ珍しき
この字種類の変ずるなり

ぐもん

○ゐるち女房

高勝のワろう武道具屋拂物の曲突と是と居ふ解て
三宝ふ年首志ぐふ合年首て金子一万ふ売渡ね。我る三二三百
て彼男曲突を持セ来りて御縁ふ来れバ。早ん返中さん候
の金子ハ女房なれもよき小居し申下云道具家中て一見売渡る
物なれバ甚怪しからぬ見さし。是おゝバ島同一貫文ふ買取りけり。
居升ふ手同の述つ泥ると喜び。又ゆき襟て躍子ゑふ杦と置
者有て。又金ふ売渡ゐるが。是をも示居敷よしといふ前の
物にして買ふ戻しね。我ゐる売三百人子追んで又一人の男が四百匁と
あて持返りしが。甚陰谷の此治もなせし我が小旬斗色て。曲突気と
持逆や買戻呉らの道具屋へ行ても先ふ限り我笑ふ

感ぜしその訳さてよ。彼男が向ひ伯母なる人、[illegible]
[illegible]ふ。此男さればこそ怪異あり。平敷い[illegible]法が及ばず、[illegible]
の妻、宮崎の[illegible]が[illegible]て、[illegible]。我等此怪を称[illegible]
[illegible]を追ひ又[illegible]の如く[illegible]者懼[illegible]
[illegible]。道具屋を恐怖し、[illegible]我方にて[illegible]
怪異あるとて[illegible]。実成なく買戻して、其[illegible]人と聚て[illegible]
談[illegible]なれば[illegible]の責を[illegible]。彼[illegible]
彼が性を記。彼宮崎ハ北[illegible]伯母なるもの。寡婦にて[illegible]
[illegible]曲実なり。伯母[illegible]。[illegible]仕[illegible]
[illegible]書[illegible]て、其子細あるとて[illegible]
故あるべし。[illegible]道[illegible]の[illegible]曲実とあ[illegible]

[illegible]の家、[illegible]蔵の[illegible]を埋[illegible]。蓋を[illegible]ハ[illegible]。
[illegible]て日[illegible]伯母なるもの。[illegible]約[illegible]費を省くの性質にて。
[illegible]女房に[illegible]名を付[illegible]の千辛万苦ハ[illegible]して。
[illegible]る金を[illegible]者と称し。彼のごとく[illegible]。[illegible]を[illegible]と
[illegible]を投じて、伯母[illegible]。[illegible]の怪[illegible]。人間死
朝に迫んで、[illegible]感の情と性[illegible]者ハ[illegible]念[illegible]。其例[illegible]
[illegible]性[illegible]

繪門氏の能筆を摹仰と屬して世界と倣く見やすくと
則て来生徒とかゝるこゝろの程異つ仰て千色舍主人は
紙して其伝授所あるものと若干を刊行を初度出版仕中
又漸々八方頃此續編を後日の為し

文栄堂識

東都画工　勝川春章　勝川春英

享和二戌春正月吉日　東武糀町三丁目　三崎屋清吉梓